

Architecture Of My Origin

～私が生きてきた空間～



星谷 究実
建築設計計画 | 研究室

コンセプト

建築とは何なのだろうか。私はこの大学四年で欠かさずずっと考えてきたことだ。人々は安心や安息、利用することを求めて建築を利用する。しかし、技術は発展していき建築を利用せずとも買物ができるし仕事もリモートで作業をすることができてしまう。そうなった中で果たして建築は何を与えることができるのだろうか。私がその中で感情を空間として表現することにした。人の感情を触媒として建築を繋ぐ。

プログラム

感情を伝えようにもそれらはその事象の前又は、後にある感情の起伏や風景が無ければ人にその空間性を理解することはできない。なので、今回は自身の記憶を頼りに空間を構成する。まず、記憶を整理するために一番印象に残っている場面とその前後に覚えている情景を絵画として書き起こす。そこから自身の状態、空間のスケール、光の入り方、上下左右の状態を整理し、人々に伝える為に変化させる。

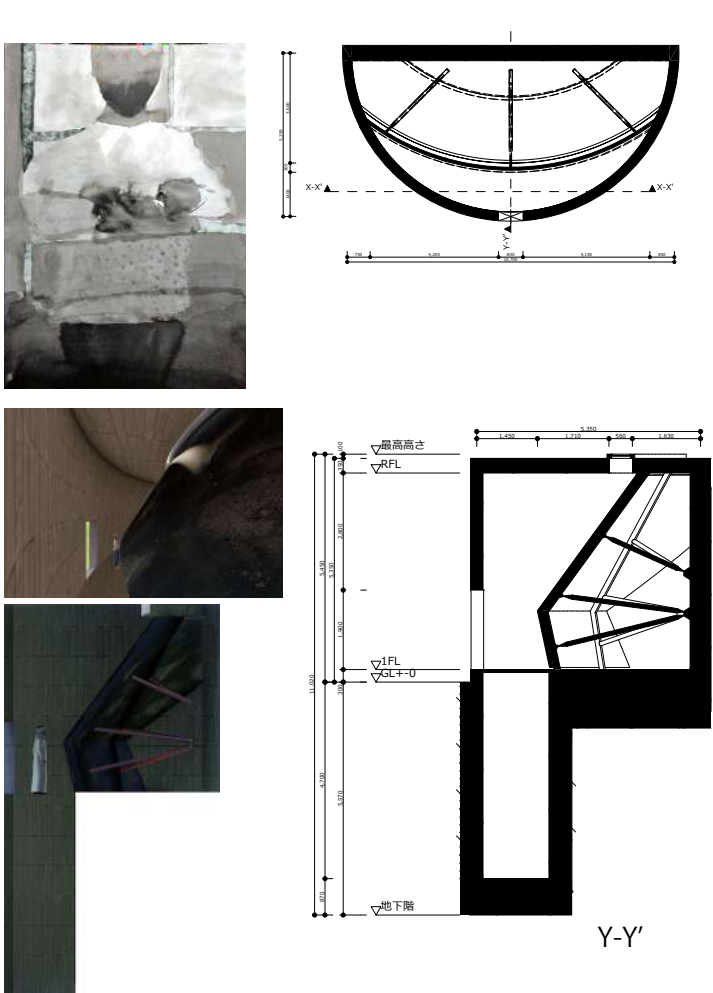
デザイン

今回は5つの感情を空間として設計した。
1.微睡み、2.萎縮、3.悲嘆、4.心安、5.感動。
これらをその場面しか覚えていない瞬間的記憶と前後を曖昧にでも覚えている連続的記憶の双方を設計した。

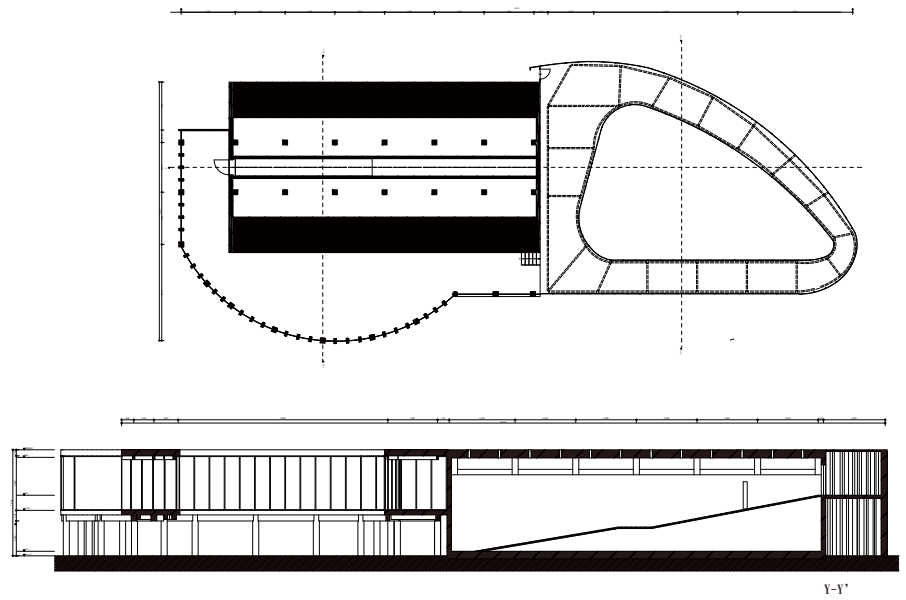
微睡み建築＝幼少期の微睡みの中の情景



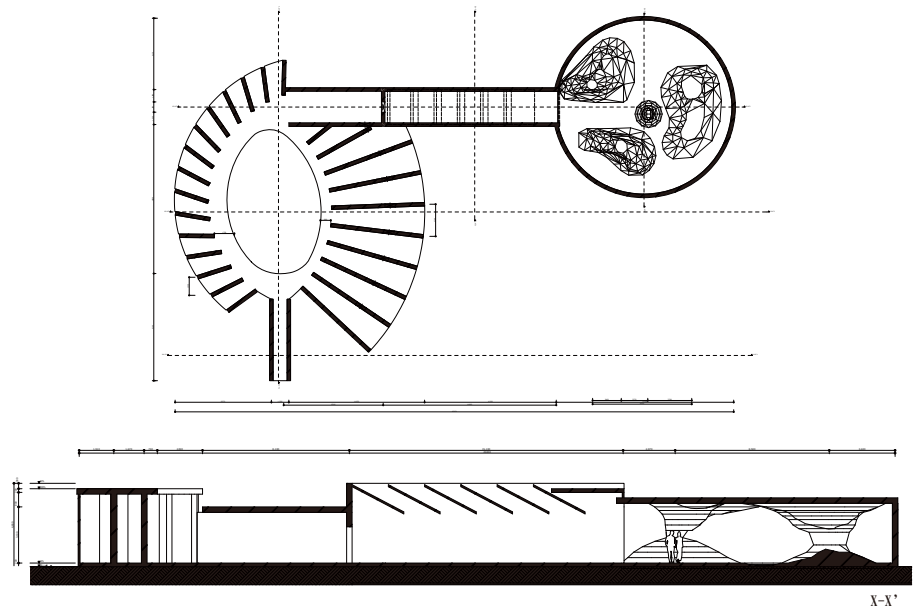
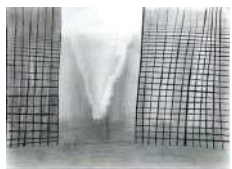
萎縮建築＝怒りをぶつけられた情景



悲嘆建築＝信用を失ったときの情景



心安建築＝光の温かみの情景



感動建築＝幼少期にみた河川敷の夕焼け

